

児童生徒の声の収集

～聞かせてください！！みんなの気持ち～

いじめ対策推進課では、小中学校を訪問し、児童生徒のいじめに対する思い、友達とより良い関係を築くための考えなどを聞かせていただきました。

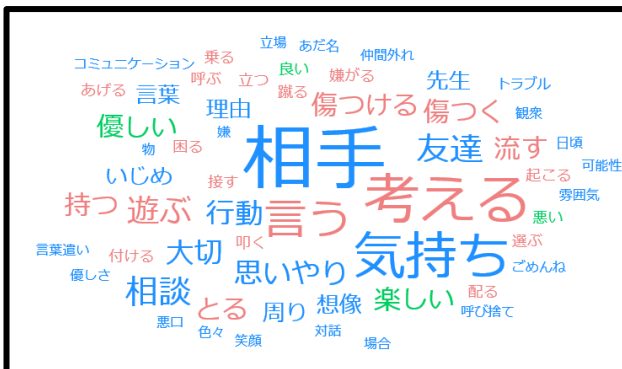
学校の授業や集会、朝の活動など、学校での日常的な取組みから、児童生徒の率直な思いを聞き取りすることができました。また、アンケートも実施し、これらの意見を「児童生徒の声」としてまとめました。

1 相手の気持ちを考えること

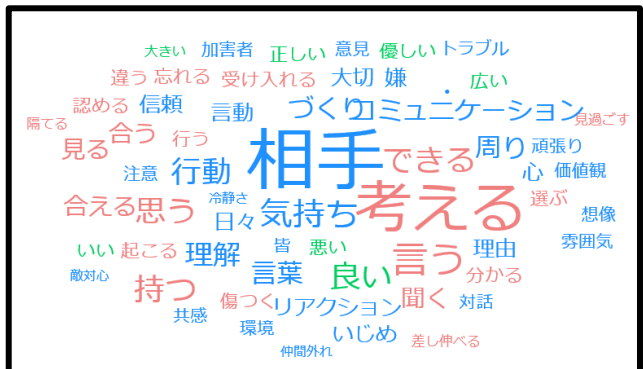
◆ 友達とより良い生活を送るために、普段から心掛けていること

友達とより良い生活を送るために、児童生徒がどのようなことを心掛けているのか、文章で表現してもらい、多く挙げたキーワードが中央に大きく表示されるようにしました。「いじめ」という言葉よりも「相手」「気持ち」「考える」などの言葉が目立ちます。

(小学校の児童に聞きました)



(中学校の生徒に聞きました)



【実際の文章をいくつか紹介します】

(小学生)

- ・相手がどんな気持ちになるか想像しながら、相手が傷つかない言葉を選ぶ
- ・相手の頑張りや良いところを見ようとする
- ・周りから信頼されることを進んでする

(中学生)

- ・トラブルには必ず理由があるから、しっかりと対話する
- ・日々のコミュニケーション。相手が言ったことにしっかりとリアクションをする
- ・雰囲気づくり。正しいことを言い合える環境づくりをする

授業をいくつか参観させていただき、児童生徒の声をヒアリングしました。その一部を、紹介します。

(小学校授業)

自分が親友から受けた冷たい態度を、友達に相談したことにより、親友の悪い噂が広がって大きなトラブルに発展してしまう。それを意図しなかった自分は、どうしたら良いか悩む。

(児童の授業感想から)

- 人を傷つけることがダメなことは分かっているが、軽い気持ちでの言動が膨らんでしまい、大ごとになってしまう可能性もあると分かった。
- トラブルの発生には、周りの人が大きく関係していることが分かった。
- トラブルには必ず理由があるから、相手の気持ちをしっかりと確認することが大切だと思った。



(中学校授業)

主人公のAは、友だちのBに冷たい態度をとられたことに腹を立て、SNS にその出来事を書き込む。あっという間に情報が広がり、Bは孤立してしまう。「B がかわいそう」という書き込みもあったが「冷たくされたの私だし」とAは投稿し、SNS は盛り上がる。

(生徒の授業感想から)

- B の態度がきっかけかもしれないが、みんなに同情を求め SNS に書き込んだ結果だからA も悪い。自分がA ならB に謝りに行く。
- 同情を求めて人に愚痴を言っても解決はしないと分かった。「なぜ B が冷たい態度を取ったのか」など、自分が同じケースに遭遇したら相手としっかりと話をしようと思う。
- 周りの友達も、A の書き込みだけでB を非難するのは良くない。トラブルがエスカレートするようなことはするべきではない。一つの情報を鵜呑みにせずに友達と接したい。

子どもたちは、日々の生活において「いじめ」という概念を意識したり、基準としたりすることよりも、「相手の気持ち」を大事にしながら、友達とより良い生活を送ろうとしています。

いじめに着目した取組みに限らず、道德の授業をはじめとした教育活動や、日々の生活において対人関係の学びを大きく得ていることが分かります。

2 大人の見守りと支え

- ◆ 人間関係のトラブルで悲しい思いをしているとき、だれに、どんな言葉をかけてもらえるとうれしいですか

【中学生の実際の回答を、いくつか紹介します。】

- ・ 友達から 「何があってもそばにいるから。」など、不安な気持ちをほぐしてくれるような言葉、自分には味方がいると実感できる言葉
- ・ 友達から 笑い話をしてくれたり、気を紛らわす言葉をかけてくれるとうれしい
- ・ 友達から 「一緒にゲームでもする？」など、いつもどおり話しかけられるとうれしい
- ・ 家族から 話を聴いたうえで具体的な提案ではなく、共感や慰めの言葉
- ・ 先生から 「心配しなくていい。いつでも相談していい。」と相談がしやすくなる言葉
- ・ 誰でも良い 共感して、ただ話を聴いてほしい



「友達」「先生」「家族」が多く挙がりました。

人間関係のトラブル、特にいじめを止めるためには、第三者の介入が必要となることが多くあります。

「いじめを止めてほしい人は？」と質問すると、特に「友達」と回答する人が多くいました。

「友達」として、どのようなことができるでしょうか。

「自分がいじめを見ている側だったら」という質問に対して、児童生徒から挙がった声について、次ページに紹介します。

◆ 自分がいじめを見ている側だったら、どのようなことができますか

【実際の文章をいくつか紹介します。】

(小学生)

- ・相手を悲しませた人に、なぜそうしたのか聞いて注意をする
- ・悲しんでいる友達にやさしく声を掛ける
- ・何もできないかもしれないけれども、すぐ友達や先生に相談する

(中学生)

- ・止めに入って、お互いの話を聞く
- ・生徒同士で「いけない」と言うことが大切
- ・いじめている人に共感しない



友達を助ける行動を取るという声が挙がる一方で、

(小学生)

- ・迷ってしまう
- ・相手に何かを言うと自分も何かされるかもしれないし、嫌われるかもしれない
- ・連絡帳に書きたいけど、バレたら怖い
- ・明らかにいじめだと分かったら止めるかもしれないけど、いじめているのか分からないときは、何もしないかもしれない
- ・見た瞬間に怖くて逃げると思う

(中学生)

- ・大勢の意見に寄ってしまう。少数派の意見や行動は躊躇^{ちゅうちょ}してしまう
- ・注意した後どんな行動を取られるかが分からないから言えない
- ・自分を守るために無視したり攻撃したりする人がいるからいじめがなくならない

という声も挙がりました。

「いじめを止めること」は子どもたちにとっては、とても勇気がいることです。大人が見守り、支える必要があります。そばにいる大人が、日頃から、子どもたちとの会話を心掛けたり、遊びの様子を気に掛けたりと、アンテナを高くすることが大切であり、子どもがSOSを出しやすい相談できる存在も必要です。

3 自己肯定感の高まり

小学校6年生による小学校1年生への本の読み聞かせや、中学生が小学校に出向いて行った合同挨拶運動を参観し、取り組んだ感想をヒアリングしました。また、これまでの学校での活動において自分が役に立ったと感じたこと、必要とされた経験などについても聞きました。

(小学生)

○一年生のお世話をして、一年生に喜ばれた。

- ・名前を呼んで「ありがとう」と言ってくれたのでうれしかった
- ・休み時間に会うと近づいて来てくれるようになった
- ・一年生のお世話を何回か続けることで、どうすれば相手が喜んでくれるのか、だんだんと分かってきた



○委員会で下級生の意見を聞きながら、話し合いをまとめることができた。活動のときには、下級生から感謝された。

○運動会の表現運動を各学年に見てもらい、下級生から憧れの気持ちを表す手紙をもらった。下級生の手本になることができていると実感した。

(中学生)

○小中合同の挨拶運動を実施して、小学生の手本になっていると感じた。

- ・小学生と一緒に活動すると、中学生はリーダーシップを発揮する。普段なかなかリーダーシップを発揮する機会がない人にも貴重な機会だと思う
- ・小中合同の活動は、小学生・中学生どちらにもメリットがあるので、これからもっと増やしていきたいと思っている

○地域防災訓練では中学生が主となって活動している。日々の活動でも、部活動で先輩から頼りにされたり、きょうだいに勉強を教えたりと、自分の成長を実感する。

○地域のごみ拾い活動を行い、地域の人から感謝の言葉を言われた。人の役に立てていると分かり、うれしくなった。

いじめをテーマに児童が開催した集会も参観しました。

- ・「人の物を勝手に取ったり落書きしたりしてはいけないか」「苦手な人でも無視をしてはいけないか」といった下級生にも分かるように工夫された〇×クイズ
- ・「こんなとき、どうする？」と、自分事として考えることができる実際の場面をロールプレイした**動画の披露**

(動画では)

友達から「〇〇さんのこと無視しようよ」と言われたとき、あなたならどうしますか？との投げ掛けに対して、

- ・友達が傷つくと思うので、「無視するのはひどいよ」と自分から伝えます
- ・その場で断るのは難しいので、「そうだね・・・」と話を終わらせて、後で先生に相談します

という上級生の複数の回答を見せる場面がありました。



日々の学校生活や教育活動では、異学年や小中学校間の交流や、児童生徒が主体的に取り組む活動など、自己肯定感が高まる機会を設けていじめに向かわない心を育て、より良い人間関係づくりを子どもたちと一緒に考えています。